

## 令和6年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- ・「いきよう」・・・安全・安心な教育環境を基盤に、児童生徒一人ひとりの命と人権を守る学校
- ・「のびよう」・・・児童生徒の知識の深化・技能の向上及び協働する心を育て、自立を支援する学校
- ・「てをつなごう」・・・南河内の歴史と文化に触れ、地域の人々とともに共生する学校

## 2 中期的目標

## 1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 一人ひとりの人権を尊重し、多様性を認め合い、安全・安心な学校づくりに向けた組織運営や環境の充実を図る。
- (2) 学校外の専門人材や関係諸機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの課題に対応できる取組みを図る。
- (3) 防災・防犯意識を高め、迅速な危機管理対応ができるような取組みを図る。
- (4) 学校ホームページにおける情報発信のさらなる充実を図る。

\*学校教育自己診断のHPに関する項目の肯定的意見を令和8年度までに100%とする。(R3 88% R4 84% R5 82%)

## 2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践

- (1) 児童生徒の個に応じた支援・指導を行うために、研修やOJTを通じた教員のアセスメント力を高める取組みを図る。
- (2) 「主体的・対話的で、深い学び」に向けた授業のあり方を追求し、積極的な授業改善やICT機器の活用を通じた教育の充実を図る。
- (3) 卒業後を見据えた「生きる力」を育むために、小・中・高が連携し、一貫したキャリア教育の推進を図る。

\*学校教育自己診断の「将来の希望や職業などについて適切な指導」項目の肯定的意見を令和8年度までに95%とする。(R3 81% R4 87% R5 90%)

## 3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化

- (1) 南河内地域における特別支援教育の力量向上のため、関係機関と連携し、特別支援教育のセンター校としての役割をさらに充実する。
- (2) 地元住民や地元企業との連携を深め、防災をはじめとした協働での取組みを充実する。
- (3) ボッチャクラブの活動を通して、障がい者スポーツへの理解・関心を高める。

## 4 「働き方改革」の推進

- (1) 学校教育活動全般を通して、業務の精選や業務の効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進	(1) 安全・安心な学校づくりのための組織運営の推進  (2) 外部人材や校内の人材活用を通して、安全に対する教員の意識を高め、専門性を向上させる  (3) 外部人材を活用した家庭教育への支援の充実  4) 防災体制の組織的確立	(1) ①学校安全や人権に関する教職員研修を実施し、授業を行う  ②医療的ケアに関する知識や技能を深め、安全で円滑な医療的ケアを実施する  ③食物アレルギーの定例研修を行う  (2) 外部専門家や校内人材による巡回相談や研修を実施する  (3) 外部専門家による保護者参加の研修会や巡回相談を実施する  (4) ①防災体制に対する教職員一人ひとりの意識の向上のため、BCPに基づいた訓練および外部専門家による研修（公開研修を含む）を実施する  ②今年度より危機管理室を中心とした危機管理チームによる危機管理体制で学校安全対策に取り組む	(1) ①教職員研修、授業(全学年)とも学期に1回。[研修年3回授業年2回] ②学校教育自己診断における「学校は、児童生徒の健康・安全について適切に対処している」の項目についての肯定的意見 95%以上を維持[98%] ③研修年2回実施[1回]  (2) 学校教育自己診断における「学校は、肢体不自由児支援教育の専門性を備えている」の項目についての肯定的意見 95%以上を維持[99%]  (3) PTA と連携し、保護者を対象に、外部人材を活用した相談会や研修会等を5回以上[5回]  (4) ①年3回以上[3回]を維持 学校教育自己診断における「学校は、防災に対する意識を高める取り組みを行っている」の項目についての肯定的意見 95%以上[94%] ②危機管理チーム会議を年2回実施	

## 府立藤井寺支援学校

	(5) 学校ホームページの充実	(5) ・学校ブログの積極的更新をはじめ、PTA とも連携しながら内容の充実を図る	(5) 学校教育自己診断における「HPを見たことがある」の項目についての肯定的意見90%以上[82%]	
2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践	(1) 肢体不自由児教育の専門性を高め、授業力向上のための校内体制の充実  (2) 「主体的で対話的な深い学び」の観点から授業改善を進める  (3) 小中高の連携によるキャリア教育の推進	(1) ①指導教諭を中心として、新転任者研修の他に、肢体不自由児教育の専門性を高める研修や指導を行う  ②自立活動通信の発行 (2) ①校内授業研究(JSS)をさらに推進し、オーダー集を整理・分析したシートを活用し、授業改善につなげる ②観点別評価に基づいた個別の指導計画の作成  (3) ①キャリア教育に関する研修を行う ②各学部、学校間交流を促進する	(1) ①研修・自立活動相談に対する指導を含めて16回以上、また研修後のアンケートの理解度95%以上を維持[100%] ②年6回[新規] (2) ①小学部20回[22回]、中学部3回[3回]高等部5回[8回]を維持する。 学校教育自己診断における「お子さんは、授業がわかりやすく楽しいと感じている」の項目について95%以上を維持[97%] ②学校教育自己診断における「教科の学習について「個別の指導計画の内容に満足している」の項目について95%以上%維持[95%] (3) ①年1回以上 ②学校教育自己診断において「学校は、地域の学校との『交流及び共同学習』を積極的に行っている」の項目について肯定的意見95%以上[92%]	
3 南河内地域の充実と地域連携の強化のセンター的役割	(1) 地域支援のセンター的機能をさらに高め、地域支援を積極的に行う  (2) 地元住民や地元企業との連携を深め、協働した取り組みを行う  (3) 障がい者スポーツの普及・啓発	(1) ①リーディングスタッフを中心としたチームによる巡回相談等の地域支援活動を積極的に行う ②指導教諭との連携による地域支援の充実  ③支援カフェを充実する (2) ①防災研修(公開)に川北地区住民や地元企業に参加していただく ②地域資源や学校ボランティアと連携した活動を推進 ③防災をはじめ、地域との連携を深めるために定期的な意見交換を行う (3) ボッチャ競技を通じた児童生徒の育成と地域への普及	(1) ①巡回教育相談、教職員対象研修など20件以上[24件] ②地域校への巡回相談3件以上[新規] ③カフェ相談件数9件以上[9件]維持 (2) ①防災研修(公開)への参加件数2件以上[2件] ②13件以上[13件] ③2カ月に1回開催 (3) ①ボッチャ甲子園等外部競技大会に参加 ②出前授業、交流行事等を促進2件以上維持[3件]	
4 「働き方改革」の推進	(1) 業務の精選、効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る	(1) ①一斉定時退庁日を週1回設定する。 ②分掌業務の精選、学校行事の見直し(行事の開催方法や日程の変更等)、一斉1便下校(学期に1回)により教員の負担感を低減する。	(1) ①時間外勤務時間月45時間以上を0人 ②学校教育自己診断に「働き方改革」に関する項目を加え、教職員の肯定的意見80%以上[74%]	